

2022 年度学習院大学海外留学奨学金
留学状況報告書（最終）

非公開希望	項目	内容
	所 属	国際社会科学部／ 研究科 国際社会科学科／専攻 2 年（留学年次） 3 年（帰国年次）
公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 University of Oslo; Faculty of Social Sciences
	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2021 年 8 月 15 日 ～ 2022 年 5 月 4 日 出国日 2021 年 8 月 15 日 最終帰国日 2022 年 6 月 16 日

留学の状況について、各項目について書いてください。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく詳細な記述をお願いします。

1. 留学全般について

(1) 「学習院大学海外留学奨学金」の主な支出内容と金額の内訳

前期と後期に一回ずつ、計 2 回給付していただき、主に生活費に当てました。ノルウェーは物価がとて高く、特に外食はとて高価でありできませんでした。なので前期は主に食費そして冬休みの国内の遠出の際の資金として利用させていただきました。後期は家賃の支払いに利用させていただきました。

(2) 留学当初の所感（第 1・2 回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

留学当初と現在では、考え方がとて変化したと感じています。留学前は何事も考え過ぎてしまって言いたいことが言えなかったり、日本人に囲まれて生活をしていたので多様性を実感する機会があまりなかったように思います。オスロは思った以上に多国籍で様々な人種の人が暮らしていました。大学や寮で会う人も多国籍で私にとってこれは大きな刺激となり自分が従来持っていた様々な考え方やものの見方を柔軟にしてくれたように思います。

住んでいた場所やバックグラウンドによって生活のスタイルや考え方は全く異なっているのはよく考えてみれば当たり前のように感じますが日本ではそういういった体験をする機会があまりありませんでした。多様性を受け入れるという意識を持つだけで生きやすくなるし物事の吸収のスピードも上がるというのがこの留学を通して私が思ったことです。

時にはその生活スタイルや考え方が全く自分と合わずに苦労しどうしてわかってもらえないのかと悩むことも多かったのですがそういった経験を通して、わかり合うためにはどうすれ

ばいいかお互いに納得のいく方法を考えるなど社会に出た際にも使えそうな考え事をする機会も多かったのが個人的に問題解決能力も上がったように思います。多様性を理解すると理不尽な場面に遭遇した時にもこういうこともあると割り切れるようになっていたり、自分の当たり前は他の人にとって全く当たり前ではなく、むしろタブーだったりもするという仮定を念頭に置けるようになったことで物事の許容できる幅が広がり、たくさんの中から素直に学ぶことができ考え方も物の見方も全く知らなかった他の国の文化を簡単に吸収して自分にインプットできるようになりました。

自分がマイノリティーになるような環境に飛び込むことはあまりありませんがそういった体験をすることが多様性の許容にもつながり、それと同時に自分が日本人であることに誇りを持てるようになりました。社会のグローバル化が進み海外の人と関わることがこの先もどんどん増えていくと思いますがそういった時に物おじしないような精神力と関わる時に何よりも大事な相手を理解しようとする努力の仕方を身につけられたのも大きな収穫です。

留学前と留学後で変わったことは何かと聞かれたら本当にたくさんあり過ぎて書ききれませんが、臨機応変に対応する力と人との関わり方に関する能力が格段に上がったことが一番実感できることです。

(3) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

留学前に準備しておけばよかったと後悔していることは前期にも記述しましたがノルウェー語を少しやっておけばよかったと思います。英語を流暢に話してくれる人がほとんどで生活する上で英語だけでやっていくことはできますが、初めに話しかけられる時の多くはノルウェー語でした。また、ノルウェー語を少しでも話せると相手の人も喜んでくれるしノルウェー語は面白い言語だなと最後の方に知ったのでもう少し齧っておけばよかったと思います。オスロ大学には留学生用のノルウェー語の授業も開講されており違う国の友達も作りやすいようなのでもう少し調べてみたらよかったなと思います。

あともう一つはもっと日本についているんな知識を持っておくべきだったととても思います。私の住んでいた寮は国籍がバラバラだったので自分の国の話をする事が多くありました。特に政治的なことや自国の経済に関するトピックを話すことも多く、私はそういうことをあまり知らずに渡航してしまったのでそう言った難しい話題の時は話を振られても答えられず聞いているだけになってしまっていました。ノルウェーに留学している人の多くはヨーロッパ圏から来ているので近くの国の情報よりも日本など遠く離れたアジアの国にとっても興味があるようでした。ほとんどの人が流暢に自分の国の政治制度や現状、問題点などを話しているところを見て社会的トピックへの関心度の高さを痛感し、自分がいかに無知であるかを思い知らされました。なのでこういった日本についてのトピックは留学が決まったらなおさら注視し少しでも話せるようにしておくことより深いコミュニケーションが取れるようになると思います。また、日本にいないと思いつかないような考え方や視点に出会う機会でもあるので政治などの社会的なことに関わらず日本についての文化などいろいろなジャンルに興味を持って知識を持っておけばよかったと思います。

2. 留学先大学について

(1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

留学先のオスロ大学は本当に良い大学でした。前期はコロナの影響でオンライン授業、オンライン試験でしたが不安なことや疑問点があれば気軽にメールできるという点や授業のトピックごとにその分野に精通した教授や他の機関から講師を招いて授業が行われるなど毎回の授業が新鮮でした。授業スタイルは日本と似ていてパワーポイントを利用したのですが授業によってはセミナーと言って少人数で作業をしたりディスカッションをしたりするものもあります。後期は全て対面で行われ、その授業中は教授からの問いかけや考えを問うものも多く生徒は自分の考えを気軽に発信できます。どれだけ手をあげていても全ての人が答えられるように待ってくれるのでたくさんの考え方を知ることができます。オンラインでは発言しにくかったのかあまり発言する人がおらず、日本の授業に似ていると感じたのですが対面になるとより活発に意見交換が行われ教授もより身近に感じられたので前期よりも授業の理解度が上がりとても楽しかったです。

(2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

私はオスロ大学に最初に惹かれた理由は図書館の綺麗さでした。テレビで偶然やっぴこんな大学で学んでみたいと思ったのですが、初めてその図書館を生でみたときの衝撃は今でも忘れられません。想像以上に綺麗で広く、北欧らしいランプが個々の自習用テーブルに備え付けられています。私はこの図書館でよく自習をしていましたが本当に集中できて勉強するのに最適な場所でお気に入りでした。オスロ大学は至る所に自習用のスペースが設けられています。グループで活動できるカプセル型の自習室から一人用の机、それからソファ型の自習室など日本ではみたことがないユニークな形の自習室がたくさんあって人によってお気に入りの場所が違うので友達に聞いて毎回違う場所で自習をすることが楽しみでもありました。また、カフェがたくさんありそのスタイルもカフェごとに違うのでいろいろなカフェに行くことが楽しかったです。特にブッフエスタイルのカフェではたくさん野菜を摂取できる量も自分で調整できるのでよく利用していました。価格もノルウェーにしては低価格でした。緑も多く芝生や階段も野外にたくさんあったので天気の良い時はご飯を持って外で話しながら食べるという日本で密かに憧れていた外でのピクニックもできて大学生活はとても楽しむことができました。

(3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

オスロ大学では語学補習講座が開講されていましたが留学生向けに開講されていたのはほとんどがノルウェー語であったと思います。英語学科はありましたが語学講座ではなかったです。ノルウェー語講座は初級から上級、文法からオーラルまで自分のレベルに合わせて伸ばしたい部分を集中的に学ぶことができます。時間数によって単位や深さが違いますが多くは1学期週に1回でした。費用は無料です。

生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

ノルウェーの大学はオスロ大学に関わらずどこでもサポートが手厚いという印象があります。オスロ市内の大学に通う大学生をサポートしてくれる SiO という団体がおり、この団体が生活における多くのことをサポートしてくれます。寮もこの SiO が運営している寮から選びました。ジムや提携の医療施設もあるのでコロナのワクチンパスポートの発行などもこの団体にやってもらいました。また、たくさんのイベントを企画してくれるので Facebook でチェックしておいていきたいものに友達と行っていました。生活に関する質問や不安なことはすぐにこの団体にメールをすると比較的早く返信が帰ってきていろいろなことを教えてくれたのでとても助かりました。

大学では学期の初めにバディーグループという全ての留学生を対象とした大きなイベントが開催されます。学科ごとにグループに分けられ、現地のオスロ大学の生徒さんが 1 週間の間にさまざまなイベントを企画してくれます。パーティーやバーベキュー、スポーツ大会までバディーグループによってやることはさまざまです。これは留学の始まりに行われるものなので多くの人が友達を作ろうとするのでたくさん友達ができ、その後も繋がることのできる友達を作る重要な期間です。しかし私は隔離期間とかぶってしまい、まるまる参加できませんでした。少し早く行き、参加できた友人を見ているとその後もそのつながりで遊びに行ったりしていたのでとても重要なイベントだと思います。

資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。

大学周辺の治安はとてもいいと思います。大学の周辺といっても大学がとても広く駅から最も近いので駅周辺にはほとんど大学に通う人しかいません。オスロ市内にとっても近いですが静かです。大学には常に人がいるので賑やかです。

(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。

オスロ大学は想像以上に良い大学でした。ノルウェーは教育費が大学まで無料ということもあって施設やキャンパスは一体どんな感じなのだろうと通う前は思っていたけどとても綺麗で勉強に集中できる環境が揃っていると感じました。自習をするにしてもたくさんの選択肢があるのでいつも今日はどこで自習しようかと考えることが楽しかったです。室内に入ればたくさんの学生が一生懸命勉強しているので自分も頑張らないとという気持ちになり、外に出れば芝生でお昼寝している人や友達とピクニックしている人、本を読んでいる人とそれぞれが思い思いの過ごし方をしているところを見ることができると自分も晴れやかな気持ちになります。勉強する時はしっかりする、休むときは休む、そういったメリハリを肌で感じることができ、自然と自分にもそのスタイルが浸透していったのが嬉しかったです。穏やかな空気が常に流れているオスロ大学が私には合っていたし大好きでした。

(6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)
Nordic welfare society - contemporary perspectives (10)	
Family, gender equality and the welfare state (10)	
Popular culture (10)	

3. 宿舎について

(1) 種類

大学の寮

(2) 宿舎の探し方

大学からの斡旋で寮は決めましたが情報だけだったので自分で調べて申し込みをしました。

⇒自分で探した／その他の場合のその方法と良かった点・悪かった点

私が住んでいた寮はオスロ市内の 28 の教育機関に通っている生徒のための社会福祉団体 SiO という団体の中の寮でした。この SiO という団体は大学内のサークル、寮、ジム、医療に関することなど留学生活において必要なことの多くを総合的に管轄しています。生活に関することや医療に関することなど疑問があれば気軽にメールで質問することができ、比較的早く返信が返ってくるので困った時にとっても便利でした。

市内にたくさんの寮があるので選ぶのが大変でしたが三つほど候補をあげてそこから選ばれるので自分の一番希望するところに入れるとは限りませんがほとんどの場合通ると思います。私は最初登録されていた寮がありましたが工事か何かの理由で渡航の 2 週間前くらいに寮の場所が変わったという連絡があったので住む予定であった場所から急に変更になることもあると思います。寮はとても綺麗でさまざまな国の留学生と共同生活をするのでとても楽しかったです。

(3) 家賃

月額 (現地通貨) 約 5000kr、(日本円) 約 70000 円

寮のタイプによって家賃は異なります。私はフラットメイト 8 人でキッチンのみを共有、バスルームとトイレは個々にあるタイプの寮を選択しました。

そのほかには 2 人でキッチン、バス、トイレを共有するタイプや 8 人でキッチン、バス、トイレを共有するタイプもあります。

この選択は本人がどこまで他人とパーソナルスペースを共有できるかという点や金銭面との相談が必要になってきますが、バスやトイレの共有は使用の仕方や掃除の仕方そして生活リズムによって様々な問題が起こる可能性がある所以我はキッチンのみを共有を選んでとても良かったと思っています。

(4) 食事

自炊

ノルウェーは物価が高いことで有名な国ですが特に外食がとても高価です。日本から留学に行った私には何もかもが高く見えたのでほとんど外食はせず自炊をしていました。ノルウェー人はあまり自炊をする文化がないので外で食べたり冷凍食品のピザを買ってきてそれらをよく食べていた印象でした。

私は留学するまで実家暮らしで母がご飯を作ってくれていたもので自炊を毎日するのは初めてで初めは買い物も毎食何を食べるのか考えて料理をすることも何もかもうまくいかずとてもストレスでしたが寮に料理好きの人が多く国籍もバラバラだったのでよくキッチンパーティーと言ってみんなで料理を作って食べるというイベントを行っていました。フランス料理やモロッコ料理、スペイン料理、ノルウェー料理などたくさんの国の料理を食べました。海外の人は和食が想像以上に大好きで一度巻き寿司をみんなで作ってみたらとても評判がよく巻き寿司パーティーは留学中に10回近くは行いました。こういった経験を通して料理をする楽しさに目覚め、留学後半はノルウェーにある食材を使って和食を作ってみたり韓国料理を作ってみたり色々な料理に挑戦しました。

オスロ市内にとっても安い青果店があったのでそこに週に一回食材の調達に行くのも毎週の楽しみでした。ノルウェーは日本の調味料があまり売ってなかったのですが和食を食べたい時はかなりきつかったのですが日本から持っていったものやあるものでばいものを作っていました。物価が高く自炊する文化がない国ではこんなに料理をしたりキッチンパーティーをする機会もなかったと思うので私はノルウェーでの食生活にとっても満足しています。

(5) 大学までの交通手段、所要時間

メトロ

駅が目の前にある寮に住んでいたので駅まで早歩きで徒歩5分そこからメトロに乗って15分ほどでキャンパスに到着します。メトロもとてもシンプルで5本の線しかありません。私は寮の前の駅を通るメトロが一つしかなかったのですがこれが市内の中心地どこでも止まるものだったのでほぼこの一つの線しか利用していませんでした。

(6) 感想、良かった点・悪かった点

留学生活で思い出に残っていることは何かと聞かれたら私は確実に寮生活と答えます。そのくらい私にとって寮生活はなくてはならない宝物のような日々です。私は寮を8人のフラットメイトと共に過ごしました。前期と後期でメンバーの入れ替えがありましたがありがたいことにどちらの学期も素晴らしいフラットメイトに囲まれてたくさんの思い出を作ることができました。国籍も年齢も20歳から30歳まで幅が広く通っている大学も専攻も全て異なっていて唯一の共通点は学生であるということだけでした。もちろん生活スタイルもとてもバラバラで私は日本にいる時から朝方の生活をしていたのでノルウェーでもその生活スタイルを継続させていましたが寮の大半は起きるのが11時以降という生活だったのはまず最初に驚いたことです。一番驚いたのは食事スタイルの多様性です。私が生活していたフラットは特に多様性に富んでいてイスラム教の人、ベジタリアン、ペスカタリアン、アレルギーがたくさんある人、お肉をよく食べる食文化で育った人など本当に食べられるものがバラバラでした。こんなにバラバラでも違う国から8人集まればそんなの当たり前という精神をみんなが持っていてキッチンパーティーをするときは肉ありとなしのものを二つ作ったりみんな

なでベジタリアンに挑戦してみたりめんどくさいと思わず全員が食事を楽しめるようにと自然に配慮している姿にとっても感動したのを覚えています。初めの頃はなかなか宗教上何がよくて何がダメなのか、これを使ったらみんなが食べられるのか考えることがとても大変でしたが慣れてくると自然にイスラム教の人が食べられるハラールミートを自分の料理にも使ってみたり、お寿司の具材も魚を入れるものと野菜のみのものを作るようになっていたり自分もその環境に適応できるようになっていたのが個人的にとっても嬉しかったです。このように日本にいと体験できないような他の国の文化を体験できたり全く考えたことがなかった考え方に出会ったりと寮の中で過ごす毎日が刺激的でした。

私のフラットは本当に仲が良く、出かけたり誕生日は必ずお祝いしたりノルウェー国外の旅行にも行きました。心の優しい人ばかりで留学初期に全く会話に入れずその場にいることが苦しかった時期がありましたがそういう時どう意味かわからない時はわかりやすく説明してくれたり間違った英語を使っていたら直してくれたり英語を使うことに対して億劫にならないような環境を作ってくれました。また、怖い体験をしてしまい日本に一時的に帰国することになった際理由を言えずに日本に帰国してしまったのですが本当のことを言っておいた方がきっと後期も生活しやすいと思い、自分の状況や心境をととても長いメッセージで送ったのですがそれに対する返信が本当に温かいものばかりで日本で号泣したのを覚えています。この経験がもう一度ノルウェーで頑張ろうと思わせてくれた一番大きな要因でした。戻った後は事情を全て知ってくれていたので毎日様子を気にかけてくれたりどこか遠くに行く時は一緒についてきてくれたりたくさん助けてもらい支えてもらいました。大学に入学して以降、コロナの影響で人と関わるのが少なくなっていたので忘れかけていましたがこの寮生活を通して人との関わりがこんなに素晴らしいものであったことを再確認しました。

ノルウェーを離れる前の日は泣く予定ではありませんでしたが最後にみんなでハグをしたら思い出が溢れてみんなでたくさん泣きました。今まで言えていなかったお礼をたくさん言うことができ自分が離れると言うだけでここまで泣いてくれる人がいることに感動しました。

私にとってこの寮生活が留學生活のハイライトといっても過言ではありません。

8月に渡航した際はまだコロナ真っ只中だったので隔離の影響で留學生の学期始めのイベントも全て参加を逃し、授業もオンラインだったので大学でのコミュニティー作りが上手くいかなかった中でこうして寮でたくさんの素晴らしい人たちと出会い、生活をし思い出を作ることができました。寮生活は本当に楽しいです。一生私の宝物だと思います。

これからもずっとここで仲良くなった縁や学び得たものを大切に生活していきたいです。

4. 費用について

(1) 学 費

(現地通貨) 約 0 、(日本円) 約 0 円

ノルウェーは教育費が大学まで無料でそれが留學生にも適応されます。

学習院への学費のみでそのほかに費用は払っていません。

(2) 渡航方法と金額

飛行機 (日本円) 約 70000 円

日本からノルウェーへの直行便はないので必ずトランジェットが必要です。

私はヘルシンキでトランジェットで所要時間は約 12 時間でした。

(3) 生活費（宿舍費を含めた金額を記載してください。）

（現地通貨）月額約 、（日本円）約 100000 円

家賃以外の出費は食費が多かったです。

(4) 費用の持参方法

クレジットカード、デビットカード

⇒その方法についての感想、良かった点・悪かった点

私は主にデビットカードを利用していました。

生活費は月ごとに両親に入金してもらってその中でやりくりをしていました。

ノルウェーを含む北欧の多くはキャッシュレス決済先進国で現金も一応持っていきましたがほぼ使っていません。

友達との割り勘にも送金アプリを使用していたのでパーティーなどのお金の割り勘のストレスもありませんでした。

ノルウェーではヨーロッパのクレジットカードや自国のクレジットカードではないと支払いができず、はねられてしまうことが何回かあったので一枚のクレジットカードではなく何枚か作って持っていったり、別の支払い方法（apple pay や PayPal ）を準備しておく選択肢が増えてあまり困らないと思います。

5. 保険について

(1) 保険会社名

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

(2) 保険料

152250 円

(3) 加入した保険の種類、内容

リスク細分型特定手続き用海外旅行保険（t@biho たびほ）：ヨーロッパ地域

医療費に関する補償とノルウェーは乗り継ぎをしなければならなかったのでロストバゲージ対策に手荷物遅延に関する補償とロストバゲージにあった際に必要なものを揃えるときの費用を補償するための補償をつけました。

ロストバゲージには幸い遭いませんでしたが、日本人留学生の中で荷物を違う国へ運ばれてしまった人もいたので入っていてもいいのかなと思います。

(4) 感想、良かった点・悪かった点

留学中に保険を利用することはありませんでしたが期間内にヨーロッパ外を旅行した際にも適応されたのでとても安心でした。国によっては医療費がとても高いこともあるのでそういった点では適応可能地域について柔軟に対応していただけたのでこの保険にしてよかったです。

6. 荷物について

(1) 荷物の送付方法

手荷物・海外宅配便

荷物は大きなスーツケース1つと小さめのスーツケース1つ、そしてリュックサックを持って行きました。

行きは日本の航空会社から行ったので二つの荷物を預け入れることができ重さも 23 キロずつだったので自分の持って行きたいものは全て持っていけました。ただ帰国の際に他の国に寄ってから帰国しましたがその時に海外の航空会社を利用して重さが 25 キロまでということを知らず超過料金として大金を支払うことになってしまったので重さの確認はとても重要だと思います。

そのほかにノルウェーの冬が予想以上に寒く日本から防寒の衣類を送ってもらった際は海外宅配便を利用しました。コロナの影響で時間はかかりますが便利だと思います。

(2) 持って行って良かったと思う物

日本食を持って行ったのはとても良かったなと思います。特にフリーズドライの和食のインスタント食品は体調が悪い時にとっても重宝しました。

あと私は2回ほど体調を崩しましたがその際に日本から持って行っていた薬たちがとても役にたちました。ノルウェーでも薬局はもちろんありますがノルウェー語の記載で自分の英語もまちがっていたらどうしようと思って薬を買うのは個人的に怖かったので多めに持って行っておいて本当に良かったと思います。

(3) 持って行く必要が無かったと思う物

化粧品をたくさん持って行きましたが留学に慣れてくると全くメイクも普段の生活ではしなくなったのでそんなに持っていかなくて良かったなと思います。

洗顔やスキンケアも私は一年分まとめて持って行きましたがたくさん売っているのでこだわりがなければ選択肢は豊富にあります。

(4) 持って行けば良かったと思う物

日本のお菓子は本当に喜ばれます！私は少しだけ持って行きましたがすぐになくなってしまったので後で母に送ってもらいました。仲良くなる時の口実にもできますいろんな場面で役立つのもっといろんな種類のものや珍しいものを持っていけば良かったです。

日本っぽい小さなギフトやお手紙が書けるものも持っていけば良かったです。韓国の友達が帰国する際に韓国の可愛いエンブレムとポストカードを手紙付きでくれてとても嬉しい気持ちになりました。日本のものは本当になんでも喜んでもらえるのであるといいなと思います。

7. 平日および週末の平均的な過ごし方

(1) 平日

授業のない日は少し授業の準備をしてその他の時間はジムに行ったり街歩きをしたり比較的ゆるゆると過ごしていました。

授業のある日は授業にいき終わったら図書館などで振り返りをしていたら1日が終わっていました。

(2) 週末

週末、テスト期間以外は勉強から離れ、公園に行って長いウォーキングコースを歩いたり映画をみたりして日中は過ごし、夜はフラットメイトとご飯を作って遅くまで話をしたりして過ごしていました。

ノルウェーで流れる時間は本当にゆっくりとしていて日本と全く違いました。そんな空気感の中で一年間何にも急かされずに過ごせたことはとても貴重な経験でした。

8. 後輩へのアドバイス等

北欧留学はいまだにとてもマイナーで特にノルウェーはネットなどで調べてもあまり情報が出てきません。特に私が留学に行った際は前例もまだおらずどんな生活をするのか全くもって想像が付きませんでした。それは私にとってとても怖いことであり同時にどんな生活が待っているのか楽しみでもありました。

結果としてノルウェー留学は私にとって最高の選択であったと思います。ノルウェーは非英語圏であり留学生を含むほとんどの人がネイティブではありません。したがって英語がうまく話せなくてもその苦悩を分かってくれますし、とても寛容に接してくれるので英語を話すことに億劫になることはありません。

また、幸福度ランキングや男女平等な国など多くの国際ランキングで高順位を獲得している社会福祉先進国でもあるので学べるのがとにかくたくさんあります。北欧留学と聞くと英語は伸びるのか、一体どんな留学になるのか想像がつかない不安はたくさん出てくるとは思います。がもし少しでも興味があれば挑戦してみることを強くお勧めします。

間違いなく良い経験になり、人生におけるかけがえのない宝物が生まれます！！

9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。

国際センターの皆さんへ

昨年コロナ禍真只中にも関わらず留学を許可して下さったこと、本当に感謝しています。急速に変わっていく社会情勢の中で留学がどうなるかわからず不安だった時も相談に乗っていただき本当にありがとうございました。また、自分でも予想もしていなかったことが起きてどうすれば良いかわからなかった時にたくさんの解決方法をくださったこと、一時帰国を含む柔軟な対応をしていただいたこと、ノルウェーに戻った際のアフターフォローなど多くの面から数え切れないほどのサポートをしていただき無事にノルウェー留学を終えることができたこと、感謝しても仕切れません。

この報告書にもっともっと書きたいくらいたくさんの思い出を作ることができ、人間としてもたくさん成長できたと感じています。国際センターの皆さんのサポートがなければきっと留学をこういった形で終わらせることができなかつたと思います。たくさんサポートしていただいたのにあまり貢献できなくて申し訳ありません。

帰国後、留学関係でお手伝いできることがあれば率先してお手伝いさせていただきたいです。本当にありがとうございました。